

リンゴわい化樹における低樹高樹形の最終的な側枝の配置

【1 成果の内容】

- (1) 先行して間伐・低樹高化に取り組んでいる大規模園地の低樹高樹形では、骨格となる側枝は3~5本程度配置されています。また、発生位置は地上高90cm~2.5mの間となります(表1、図1)。
- (2) この樹形により、高さ2m以下に約67%の果実が着果します。また、収量は岩手県の平均反収とほぼ同等であり、果実品質は良好です(表2)。

表1 低樹高樹形の樹体生育

	樹齡	主幹の高さ (cm)	樹幅		側枝 本数 (本)	骨格 枝数 (本)
			タテ (cm)	ヨコ (cm)		
A園地	24年	270	679	539	5.3	3.3
B園地	22年	285	765	464	6.6	5.4
C園地	18年	217	513	583	4.2	3.8
平均		257	653	529	5.4	4.2

1) 調査場所：奥州市江刺区

2) 台木：M.26

3) 調査樹数：各4~5樹

4) 側枝本数は直径2cm以上の側枝を調査、骨格枝は直径5cm以上の側枝を調査

5) 2007年12月調査

表2 高さ別の着果割合と10aあたりの収量

	高さ別の着果割合(%)			10aあたりの収量 (t)
	1m以下	1~2m	2m以上	
A園地	3.6	49.5	46.9	2.5
B園地	13.3	59.6	27.0	2.0
C園地	2.0	71.7	26.4	2.0
平均	6.3	60.3	33.4	2.2

1) 2009年10月調査

2) 10aあたりの収量は園主からの聞き取り

3) 岩手県の平均反収(2002~2006年)：2,102kg

4) 間伐(樹間8m)の割合：A園地 1割、B園地 10割、C園地 3割

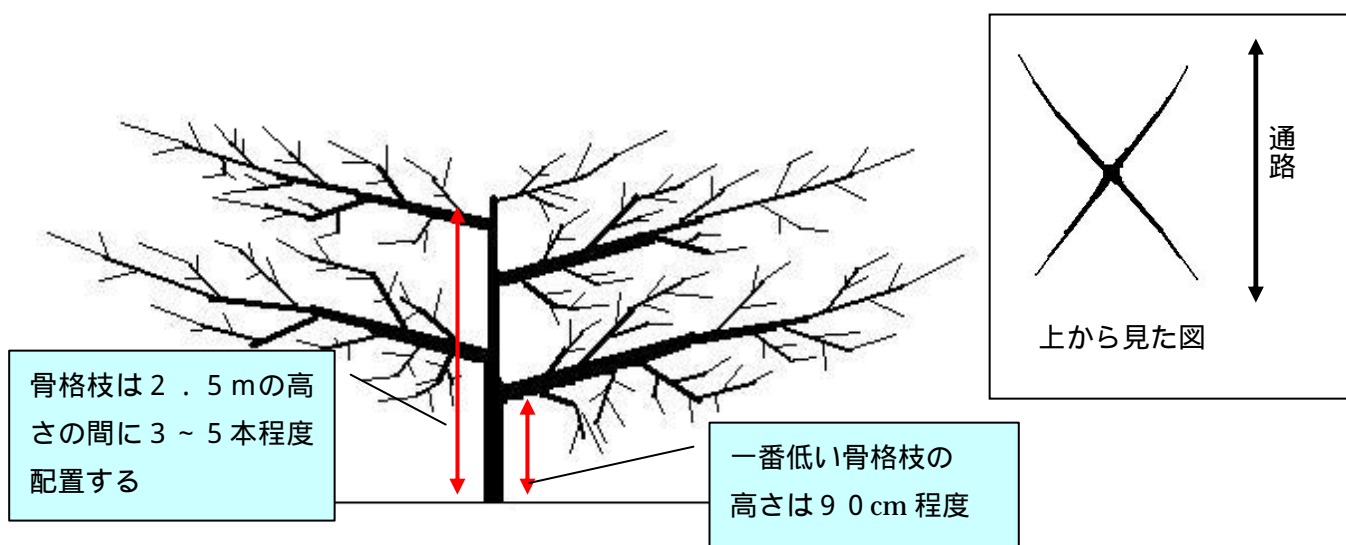


図1 最終的な側枝の配置のイメージ

【2 留意事項】

- (1) 一挙に側枝数を減らすと、樹勢のバランスを崩すため、主幹や側枝の太さなどのバランスを考慮し、徐々に側枝数を減らし、最終的に骨格となる側枝を3~5本程度とします。
- (2) 品種は「ふじ」で調査。